



作成日 2006年 4月 26日

改訂日 2023年 3月 10日

- ： 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。  
 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 眼の刺激が続く場合：医師の診察／手当てを受けること。
- ： **【廃棄】**  
 内容物や容器は、当該規則に従い都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して、適切に廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

化学名又は一般名	含有量	CAS No.	化管法 管理番号	官報公示整理番号	
				化審法	安衛法
なたね油	90.0%	8002-13-9	—	—	—
界面活性剤等	10.0%	—	—	—	—

### 4. 応急措置

- 吸入した場合 : 直ちに空気の新鮮な場所に移動し、身体を毛布等で覆い保温し安静に努め、異常が続く場合は速やかに医師の手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに多量の水と石けんで良く洗い落とすこと。  
 作業後は衣服等を交換し、着用していた衣服は他の物と分けて洗濯すること。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
- 飲み込んだ場合 : 水でよく口の中を洗浄する。可能であれば吐き出させ、直ちに医師の手当てを受けること。  
 患者に意識がない場合、無理に吐かせないで直ちに医師の手当てを受けること。

### 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 泡、粉末、二酸化炭素
- 使ってはならない消火剤 : 水を消火に用いてはならない。
- 火災時の特有の危険有害性 : 特になし
- 特有の消火方法 : 速やかに火元への燃焼源を断ち、消火剤を用いて消火する。  
 容器及び周辺に散水して冷却する。  
 消火作業は風上から行う。

### 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。  
 漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。  
 漏出時の処理を行う際には保護具を着用する。
- 環境に対する注意事項 : 漏出物を直接に河川や下水に流してはいけない。  
 漏出液が河川、養殖池等に流れ込まないように注意すること。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 少量の場合は、吸着剤(オガクズ・土・砂・ウエス等)に吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等でよく拭き取る。  
 大量の場合は、土砂等(の不燃物)で囲って流出を防止し、スコップ又は吸引機などで空容器に回収する。  
 水上に流出した非水溶性の製品は、吸収剤を使用して回収する。

### 7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い 技術的対策 : 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
- 安全取扱注意事項 : 取扱いは換気の良い場所で行い、作業場の換気は十分行う。  
 取扱場所の近くに、緊急時に洗眼及び身体洗浄を行うための設備を設置する。  
 屋外での取扱いはなるべく風上から作業する。

作成日 2006年 4月 26日

改訂日 2023年 3月 10日

		取扱いの都度、容器を密閉する。
		眼、皮膚、衣類に付けないこと。
		保護手袋及び保護眼鏡／保護面を着用すること。
		高温、火気の近くで取扱ってはならない。
局所排気・全体排気	:	『8. ばく露防止及び保護措置』を参照。
接触回避	:	情報なし
衛生対策	:	この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。
保管 安全な保管条件	:	食物、飲料等と区別し、火気、直射日光を避け、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密栓して保管すること。 小児の手の届く所へ置かない。
安全な容器包装材料	:	国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

## 8. ばく露防止及び保護措置

設備対策	:	屋内で取扱う場合には、全体換気装置を設置する。 できるだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。 取扱場所の近くに洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。
------	---	---

### 保護具

呼吸用保護具	:	農薬用マスク着用
手の保護具	:	手袋着用
眼、顔面の保護具	:	保護眼鏡着用
皮膚及び身体の保護具	:	長ズボン・長袖の作業衣

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	:	可乳化油状液体
色	:	淡黄色澄明
臭い	:	特有臭
沸点又は初留点及び沸騰範囲	:	情報なし
可燃性	:	情報なし
爆発下限界及び爆発上限界／ 可燃限界	:	情報なし
引火点	:	283℃
自然発火点	:	情報なし
分解温度	:	情報なし
pH	:	5.0～6.0 (1%水溶液)
動粘性率	:	情報なし
蒸気圧	:	情報なし
密度及び／又は相対密度	:	0.92～0.93 (20℃)
相対ガス密度	:	情報なし
粒子特性	:	情報なし

## 10. 安定性及び反応性

反応性	:	情報なし
化学的安定性	:	通常の使用では安定
危険有害反応可能性	:	情報なし
避けるべき条件	:	情報なし
混触危険物質	:	情報なし
危険有害な分解生成物	:	情報なし

作成日 2006年 4月 26日

改訂日 2023年 3月 10日

**11. 有害性情報**

## 急性毒性

経口	: ラット ♂♀ >2500mg/kg	[区分に該当しない]
経皮	: 情報なし	
吸入	: 情報なし	
皮膚腐食性/刺激性	: 中等度の刺激性	[区分2]
眼に対する重篤な損傷性 /眼刺激性	: 軽微な刺激性	[区分2B]
呼吸器感作性又は皮膚感作性		
呼吸器感作性	: 情報なし	
皮膚感作性	: 陰性	[区分に該当しない]
生殖細胞変異原性		
製品	: 情報なし	
発がん性		
製品	: 情報なし	
生殖毒性		
製品	: 情報なし	
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)		
製品	: 情報なし	
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)		
製品	: 情報なし	
誤えん有害性		
製品	: 情報なし	

**12. 環境影響情報**

## 生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)	: 区分に該当しない
魚(コイ)	: LC50 (96h) 150 ppm
甲殻類(ミジンコ)	: EC50 (48h) >1000 ppm
藻類	: EbC (72h) 570 ppm
水生環境有害性 長期(慢性)	: 区分に該当しない
残留性・分解性	: 情報なし
生態蓄積性	: 情報なし
土壌中の移動性	: 情報なし
オゾン層への有害性	: 情報なし

**13. 廃棄上の注意**

化学品(残余廃棄物)、当該化学品が付着している汚染容器及び包装の安全で、かつ、環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報

残余廃棄物	: 使用残りの農薬を不注意に廃棄したり、不要になった農薬を放置したりするとおぼろげ事故を引き起こすことがあるので、その処理に当たっては関係法令を遵守し適正な処理を行うこと。
汚染容器及び包装	: 空容器、空袋等はリサイクルできないため、関係法令を遵守し、廃棄物処理業者に処理を委託する等により適切に処理を行うこと。

**14. 輸送上の注意**

国際規制	国連番号	: 該当しない
	品名	: 該当しない
	国連分類	: 該当しない
	容器等級	: 該当しない

作成日 2006年 4月 26日

改訂日 2023年 3月 10日

国内規制	陸上輸送	: 道路法等の規定に従う。
	海上輸送	: 船舶安全法の規定に従う。
	航空輸送	: 航空法の規定に従う。
特別の安全対策		: 引火性液体なので火気厳禁。 輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 車両、船舶には保護具（手袋、メガネ、マスク等）を常備する他、緊急時の処理に必要な消火器、工具等を備えておく。

## 15. 適用法令

化学物質排出把握管理促進法	: 該当しない
労働安全衛生法	: 該当しない
毒劇物取締法	: 該当しない
化審法	: 該当しない
消防法	: 第4類 第4石油類 危険物等級 III
農薬取締法	: 登録番号 第15837号

## 16. その他の情報

### 参考文献

- ・ JIS Z 7252 : 2019 GHSに基づく化学物質等の分類方法
- ・ JIS Z 7253 : 2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 — ラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS)
- ・ 独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE-CHRIP)

この安全データシートは現時点で入手可能な資料等をもとに作成しておりますが、物理化学的性質、危険有害性等に関しては、いかなる保証も成すものではありません。また注意事項は、通常の手扱いを対象としたものであって、特殊な取扱いを行なう場合には自らの責任において用途に適した処置を講ずることが必要であることを理解した上で活用して下さい。